

平成29年度 宮崎県立西都原考古博物館 特別展

葛城氏

日向諸  
葛城氏

もろかたのきみ

葛城氏

かつらぬし

諸  
葛城氏

2017 7.15 土 SAT ▶ 9.10 日 SUN

関連  
講演

「5世紀のヤマト王権と諸葛城氏・葛城氏」

〈講師〉平林 章仁氏 (元宮崎大学教員) 〈日時〉2017年7月30日(日) 13:00~15:00 〈場所〉西都原考古博物館 1F ホール

宮崎県立西都原考古博物館  
Saitobaru Archaeological Museum of Miyazaki Prefecture

〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅56-70番  
TEL.0983-41-0041 FAX.0983-41-0051  
http://saito-muse.pref.miyazaki.jp

開館時間:10:00~18:00(観覧料 大人1780まで)  
休館日:月曜日(国民の祝日と重なる場合は除く) ※8月14日休館  
国民の祝日の翌日(休日と重なる場合は除く) ※8月12日休館

宮崎県では、記紀編さん1300年記念事業の一環として、ユネスコ無形文化遺産に向けて「宮崎の神楽」、世界文化遺産に向けて「南九州の古墳文化」を発掘しています。

入館  
無料



# 日向諸県君と葛城氏

『古事記』『日本書紀』(『記紀』)には、「諸県君」や「葛城氏」という古代豪族が登場します。「諸県君」は日向、「葛城氏」は奈良盆地南西部を基盤としており、いずれも大王家の外戚としてヤマト王権内で重要な位置を占めていたと考えられます。両者の活動は応神・仁徳天皇の在位期間にピークを迎えますが、『記紀』と中国の歴史書との対比から、概ね5世紀代のことと想定されています。「諸県君」や「葛城氏」という名称は、あくまで8世紀初頭に編纂された『記紀』の中で用いられたものであり、氏姓制度が完成していない5世紀代における豪族の実態を忠実に反映しているとは言えませんが、日向や奈良盆地南西部の有力者がヤマト王権と密接な関係を持っていたという事実が投影されたものと考えられることはできるでしょう。本展示会では両地域における古墳や集落からの出土資料について、大阪平野の資料とも対比し、後に「諸県君」「葛城氏」として名を残すことになった人々の実像について考えます。

## 大阪平野における巨大古墳の展開

4世紀中頃までの大王墓と考えられる大型前方後円墳は奈良盆地東南部に築かれていましたが、4世紀後半になると奈良盆地北部に移動し、4世紀末以降には大阪平野の百舌鳥・古市古墳群において巨大な前方後円墳が造営されるようになります。

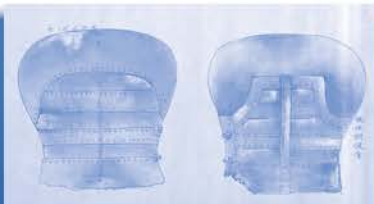
これらの巨大前方後円墳は同時代の日本列島において隔絶した規模を誇り、それらをモデルとして築造された前方後円墳が列島各地に存在することは、百舌鳥・古市古墳群を営んだ勢力が発揮した強い影響力を裏付けます。

## 葛城地域の拠点集落と首長墓

葛城山と金剛山は、大阪平野と奈良盆地の境界である金剛山地の一角をなしています。それら山々の東麓に広がるのが葛城地域であり、奈良盆地の南西部にあたります。近年実施された発掘調査では、5世紀代に築造された大型前方後円墳の近隣に大規模な集落が確認されており、有力者の本拠地であったことが確認されています。また、古墳や集落の出土遺物からは、有力者の権力基盤のひとつが中国大陸や朝鮮半島諸国との対外交渉にあった可能性が指摘されています。

## 南九州における首長墓の動向

九州では4世紀中頃～5世紀代に最大級の古墳が南九州で集中的に築造されており、古墳の形態や墳輪の特徴から、畿内の政権中枢と密接な関係を築いていたことが分かってきました。南九州が重視された理由としては、朝鮮半島との交流をめぐる北部九州勢力への牽制とする説もありますが、南西諸島から日向灘を経て瀬戸内海へ至る海上交通権を掌握する上で、航路上の有力者と連携する必要があったという考えも示されています。



仁徳天皇大仙陵石槨之中ヨリ出シ甲冑之図

個人蔵/堺市博物館寄託品 複製資料は複製品(堺市博物館所蔵)



家形埴輪

(鎮所市 富山古墳)

奈良県立歴史考古学研究所附属博物館所蔵



ゴホウラ・イモガイ鏡貝類

(宮崎県内地下式横穴墓)

宮崎県内各博物館所蔵

## 【平成29年度 展示会年間情報】

国際交流展 2017(平成29)年 10月7日(土)～12月3日(日)

### 台湾鉄器文化の粋 ～新北市十三行遺跡と人びと～

台湾鉄器時代の代表的遺跡である十三行遺跡を取り上げ、その高度な文化を紹介するとともに、広域交流の中から高い生産技術を身につけ、華やかな精神文化を開花させた十三行の人びとにもスポットをあてます。

人面土器  
(台湾中央研究院所蔵、  
新北市立十三行博物館所蔵)



(大分県立埋蔵文化財センターとの合同企画展)

企画展Ⅱ 2018(平成30)年 1月13日(土)～3月18日(日)

### 豊と日向 ～日出る国の考古学～

現在、東九州という枠組みで括られる宮崎県と大分県ですが、歴史を振り返ると互いに影響を受けながらも、異なる文化を形成していた様相が見えてきます。今回の展示では、「豊」と「日向」について各時代の特色を紹介します。



土製型人像  
(宮崎県埋蔵文化財センター所蔵)